

あなたもふるさと学芸員

続「神埼塾」の講演から⑦

神埼市の歴史遺産とまちづくり

講演者 学校法人旭学園理事長 高島 忠平氏



「くにづくりの里」めざそう

ひと口に、「歴史を生かしたまちづくり」といいますが、それぞれのまちの歴史が現在のまちをつくっているのは当たり前のことです。歴史があつて今日のまちがある、神埼市もまさにそのとおりです。

私は有田町の町並みを国の伝統的建造物群指定に向けて調査や計画作りに携わったことがあります。陶器市が並ぶあの町並みで江戸時代の建造物はたった一つで

した。あとはせいぜい古く明治、大正、大半は昭和初期のものでした。有田の陶器商たちは昭和初期

に当時の日本では珍しい大きなショールームを造りました。江戸時代に花開いた有田の陶磁文化ですが、それにこだわらず、陶商たちはあえて新しい時代にマッチした店構えにしました。

歴史遺産発掘に鋭い感性を

このように、人が住んで生きてきたまちは時代にに応じて変わって当たり前です。昔のまま凍結したような町並み保存・再編の必要はありません。陶磁器を中心にして江戸、明治、大正、昭和を人々が生活してきた証が渾然



クニの成り立ちを示す吉野ヶ里遺跡

吉野ヶ里遺跡にみる

クニの盛衰

のクニと戦うなど戦略拠点として固めていきます。

人が集い、交流するまちへ

戦略で最も大きなのは「市場」でした。単なるモノの売買・交換施設ではなく、祭りの場であり、時には若者の見合いや、犯罪者の処刑の場、国内外

私たちの祖先は、人がともに生きていくための関係、つまり、コミュニケーションでもってクニやトシ、マチやムラなどの社会をつくってきました。例えば、吉野ヶ里の場合、最初に住み着いた草分け的集団がリーダーとなつてクニをまとめていきます。そのために祖霊を祀るお祭りを主宰し、お供え用の供物を集め、蔵に入れて二元的に管理し、分配権も備えていきます。リーダーたる権威の象徴として銅剣を持ち、周りの集落を吸収統合し、他

として残る町並みを形成することこそ大事だと思います。

有田ではかつて身の回りで当たり前のように目に見える古い陶片がありました。それが焼き物のまちのイメージアップにどれだけ役立っているか土地の人たちはよく分かっています。周りの景観や歴史にとっつきつかり、空気のように当たり前に存在するもの、と感じ取れないようでは歴史遺産の発掘はできません。意識的に歴史文化遺産として認識する感性が大切です。

歴史遺産は、利活用の面から多様な取り組みがなされつつあります。地域振興・観光化といった経済面、歴史・文化・文化財理解といった教育面、思想・信仰・アイデンティティといった精神面など多岐に渡っています。歴史遺産には多様な可能性があるということです。特に経済面での観光資源を考えた場合、単独の観光遺産のみで観光を形成することは困難です。歴史遺産相互が地域的に結びつくことによって新たな価値が生まれます。歴史遺産と結びついたお土産製造・販売、農産物・食事の提供、ガイド養成など産業的な要素も含めて持続性を持たせる必要があります。

「昔ながら」の中に輝き見つけよう

地域の文化財の魅力を発見するには、8つの条件があると思います。まず、好奇心・やじ馬根性を持つて見る、体や五感で見ると、歴史を見る、絵や地図にして見る、歴史的景観や自然・人の営みが一体となった風土を見る、豊かな感性で見る、やや覚めた目で見ると



歴史風土を感じさせる城原地区の白角折神社一带

の交易の場でもありました。まさに、信仰、統治、経済、生活の拠点施設でした。

吉野ヶ里は紀元前3、4世紀から700年にわたるクニの盛衰を垣間見ることが出来る国内唯一の遺跡です。リーダーをはじめ吉野ヶ里に住む人々が、豊かな自然の中で歴史という長い時間をかけ、コミュニケーションを通じて、祭りや農業や市場を築き、クニをつくり上げてきました。そしてそれを共有し、連綿として受け継いできた成果といえます。

神埼市のまちづくりの基本方針として3つのことを考えています。まちづくりは人づくりといえます。郷土に愛着を持ち、身近な歴史を市民一人一人に語り伝え、情報発信できるリーダーが不可欠です。リーダー育成という点

「良い」「善い」「好い」点を探してみるの8ヶ条です。

そうした見方で神埼を見た場合、例えば、白角折神社一帯の丘陵というか、緩い谷沿いに広がる空間ですね。西に八天山、東に仁比山神社、中央部にはかつて水車群のあった城原川のせせらぎを見る、あの一帯はまさに自然と人の営みと歴史が渾然となった風土を感じさせてくれます。

神埼には尾崎焼再興を目指している陶芸家があります。尾崎焼のルーツは数千年前の中国の黒陶にあります。日本には朝鮮半島を通じて流入し、弥生時代以降の遺跡から出土しています。中でも尾崎焼の火鉢は黒光りする磨研土器で、古い歴史がある上、磨き、姿形が素晴らしく、見直す価値のある焼き物です。近い将来の再興を期待しています。



尾崎焼の黒茶風炉と人形

で神埼塾は評価できると思います。第2に水と歴史が織り成す豊かな環境と景観を守り育てることです。水と歴史が神埼の誇りであり、それが人がかかわってきます。城原地区にある「梅の花」は、豊かな水に加え、歴史風土を感じさせるあの位置に立地したこと自体が「ウリ」になっていると思います。3番目に人が行き交い、活力ある地域をつくることです。多くの人が集い、交流するまちにするには、市民みんなが一致して協働のまちづくりを進める必要があります。

動きだせば課題が見える

吉野ヶ里は弥生時代に日本のクニづくりの基本枠をつくった中心遺跡です。そういう歴史風土、土地柄にふさわしく、私は神埼市のテーマを「くにづくりの里」としたらどうかと提案します。テーマが決まったら、それを目標として、あれこれ考える前に始めよう、動きだすことです。動きだすことで問題や課題が見えてきます。よいと思つたことに向けてまずは始めることが大切です。

「この講演の後半部分については、8月号に掲載予定です。」

◎問い合わせ先
神埼市役所 政策推進室
37-10102